

国語科と生活科との関連を図って、「話す力・聞く力」を育む（一年）

新しい指導を考える会

1 はじめに

低学年の生活科では、熱中したことや思わぬ発見をしたこと、成功したことなどの喜びが、「伝えたい」という表現への意欲につながるが多い。このようにして生まれた表現への意欲を生かし、国語科として「だれに、なんのために、何を、どのように伝えるか」を指導することによって、表現力の確かな向上を期待することができる。

ここで紹介するのは、生活科との関連を図った、一年生の「話すこと・聞くこと」の国語科学習である。年度当初に年間指導計画を立てる際、生活科との関連を図ることで、年間を通して国語科の内容を螺旋的・反復的に指導する単元が設定できる。一つ一つの単元を通して、「話す力・聞く力」が段階的に身につくように、以下の点に留意して学習を構想した。

・前単元の学習内容・方法を次単元につなげる。
・話す事柄を増やしたり選んだりできるようにして、事柄の順序を考える必要性を高める。

なまえ

わたしの なまえは、○○です。

すきなもの

すきな ○○は、□□です。

すきなわけ

— だから すきです。

(掲示したカード)

② 絵の活用

どのような事柄を紹介するとよいか話し合っていると、「自分の名前」の次に、すぐ「すきなもの」が挙げられた。そこで、本単元の前に図画工作科でかいた絵「わたしのすきなもの」を活用することにした。話す事柄を明確にして自信をもって話すことができるように、また、友達に分かりやすく伝えることができるように、絵を示しながら話すことよいことを助言した。

エ 子どもが紹介した内容例

・ぼくの名前は、—です。すきなものは、宝石です。宝石は光ってて、大きいです。宝石は、すきとおってて、光るからすきです。

・わたしの名前は、—です。妹が大きいです。かわいいから大好きです。妹と遊ぶのが楽しいです。

・話型とともに、実物、絵、写真、動作などの活用も示し、話題に合わせた話し方への意識を高める。

2 実践

（1）四月単元「どうぞよろしく」——自己紹介する——

生活科「学校となかよし」と関連を図った単元である。入学したばかりの子どもは、「学校のことを知りたい。」「友達をたくさんつくりたい。」という思いから、「自己紹介をしたい。」という思いをもつようになる。そこで、国語科に「自己紹介」という活動を設定した。

ア 単元目標

○友達に自分のことを知らせたいという思いをもって話したり、友達のことを知りたいという思いをもって聞いたりしようとする。

○名前、好きなものなど紹介する事柄の順序に気をつけ、聞いている友達の方を見て、絵を見せながらはっきり話す。

○友達の名前、好きなものなど、大事なことを落とさないように聞く。

イ 単元の流れ（三時間）

○話すときと聞くときのめあてをつくり、紹介する事柄や順序を考え、話す練習をする。 （二時間）

○自己紹介したり、友達の自己紹介で分からないことやもっと知りたいことを質問したりする。 （二時間）

ウ 主な指導の手だて

① カードの掲示

事柄の順序に気をつけて話すことができるように、紹介する事

（2）六月単元「たんけんしたよ みつけたよ」

——調べて分かったことを報告する——

本単元も、生活科「学校となかよし」との関連を図った。入学したばかりの子どもは、「学校はどんな所だろう。」「学校のことを知りたい。」という思いから学校探検を始めるうちに、「知りたい。」という思いが、「知らせたい。」という思いに変わった。そこで、国語科として「探検して分かったことを報告する」という活動を設定した。

ア 単元目標

○探検して分かったことについて、興味をもって話したり聞いたりする。

○探検した場所の名前、位置、利用目的などの事柄の順序を考え、聞いている友達のほうを見て、画面に映し出した絵を指し示しながらはっきり話す。

○探検した場所の名前や位置、利用目的など、大事なことを落とさないように聞く。

イ 単元の流れ（四時間）

○話すときと聞くときのめあてを確かめ、学習の見通しをもつ。 （二時間）

○報告する場所を決め、話す事柄や順序を考えて話す練習をする。 （二時間）

○探検して分かったことを報告したり、友達の報告について分からないことやもっと知りたいことを質問したりする。 （二時間）

ウ 主な指導の手だて

① カードの掲示

事柄の順序を考えて話すことができるように、そして大事な

実践提案 ①

実践提案 ②

ことを落とさずに聞くことができるように、事柄とその話型を示すカードを掲示した。

ばしよの なまえ

ここは ○○です。

どこに あるのか

△△に あります。

なにを する ところか

ここは、——する ところ です。

ここは、——に つかいます。

ある もの

なかには、□□が あります。

おもった こと

わたしは、……と おもいました。

(掲示したカード)

②OHCの利用

子どもたちは、探検の際に、見たことや聞いたことなどを絵と言葉でノートに書き留めていた。そこで、この絵と言葉を示しながら分かりやすく話すことができるように、OHCを利用した。画面に映し出された絵と言葉を、話の事柄に合わせて指示しながら話すというのを助言した。

エ 子どもが報告した内容例

・ここはふれあい館です。二階の体験館の近くにあります。つぼがあつて、昔遊びとかに使う部屋です。ふれあい館に入ったときに、古いおうちみたいだなあと思いました。

・ここは保健室です。一階の職員室の近くにあります。けがを

ウ 主な指導の手だて

①カードの準備

どのような事柄をどのような順序で話したらよいか、子どもとともに話し合つて確認した。そして、話し合ったことを踏まえ、話す事柄が書かれたカードを準備した。事柄を選んだり事柄の順序を考えたりするときに、前述の「どうぞよろしく」や「たんけんしたよ、みつけたよ」では、全体で共通の掲示するカードだったが、本単元では、子どもによって話す事柄や事柄の順序がさまざまなので、自分で選択できるよう、事柄別に色分けしたカードにした。

話す事柄を考えるとときには、カードを並べて話しながら順序や内容を考えてよいこと、事柄の順序を変えて話してみると分かりやすい順序が見つかることを助言した。練習や本番では、カードを持って話す、掲示して話す、カードなしで話すなど、自分に合う方法を選択するようにした。

人や ものの なまえ	どんな ものや 人か (ようす)	どうして	どうやって	なかよしになつたか	なかよしになつて	おもった こと	どうやって	もっと なかよしになるか
------------	---------------------	------	-------	-----------	----------	---------	-------	--------------

※このカードの中から選択する。

(準備したカード)

したときとか具合が悪くなつたときに使う部屋です。保健室に入つたとき、薬のにおいがして病院みたいだなと思ひました。

(3)二月単元「見てね、きいてね、わたしのなかよし」

——なかよしになつた人やものを発表する——

生活科「もつともつとなかよし」との関連を図つた。この時期には、全校の子どもや保護者、地域の方に向けて、生活科と総合的な学習の時間の学習の成果を発表する場が設定されている。そこで、自分の「なかよし」への思いの高まりをとらえ、「なかよしになつた人やものを発表する」という活動を設定した。

ア 単元目標

○一年間の自分の活動を振り返り、なかよしになつた人やものについて、友達や保護者、地域の方に知らせたいという思いをもつて話そうとする。

○なかよしになつたものや人の様子、これまでのかかわり方や今後のかかわり方などの話す事柄を選び、順序を考えて話す。

○聞いている人の方を見て、実物や写真や絵を示したり動作を入れたりしながら、はつきり話す。

イ 単元の流れ(三時間)

○話すときのめあてを確かめ、学習の見通しをもつ。

○発表して伝える「わたしのなかよし」を決め、話す事柄や順序を考える。(二時間)

○話の内容別グループで練習する。(二時間)

※発表の時間は、生活科として二時間をとる。

②実物、絵や写真、動作の活用

話す内容がさまざまなため、子どもによって分かりやすく話す方法も異なってくる。内容に合わせて、実物を見せたり、絵や写真を見せたり、地図を指し示したり、動作を入れたりするなどの工夫をするように助言した。

エ 子どもが発表した内容例

・わたしがいちばんになかよしになつたのは、ダンゴムシです。(※絵を指し示す)この、もうちよつと左のこつちのところの(※地図を指し示す)木がある日かげで見つけました。色は黒で、お父さん指とお母さん指をちよつと離れたぐらいの(※親指と人さし指を近づけて大きさを示す)ダンゴムシも見つけたんだすけど、もうちよつと離れたぐらいの(※親指と人さし指を近づけて大きさを示す)ダンゴムシも見つけました。色は黒で、ダンゴムシの目の形は、ちよつとごまみたいな小さい丸い形です。さつきのこれぐらいの(※指で大きさを示す)大きいダンゴムシの背中に、黄色いつぶつぶがあつて、□□さんに、「それはなあに。」ときいてみたら、「それはメスのダンゴムシだよ。」と教えてくれて、ダンゴムシのことを知つてとてもうれしかったです。

3 おわりに

生活科での対象への豊かなかわりが表現意欲を生み、表現内容を充実させる。そして、国語科での表現内容や表現方法の吟味が、対象へのかかわりのよさへの気付きや次のかかわりを生む。こうした相互作用のある関連を図る学習を、今後も探つていきたいと思います。